

学齡期の支援で大切なこと
～今、仙台市に必要なこと～

自閉症相談センターの取り組みから

NPOここねっと

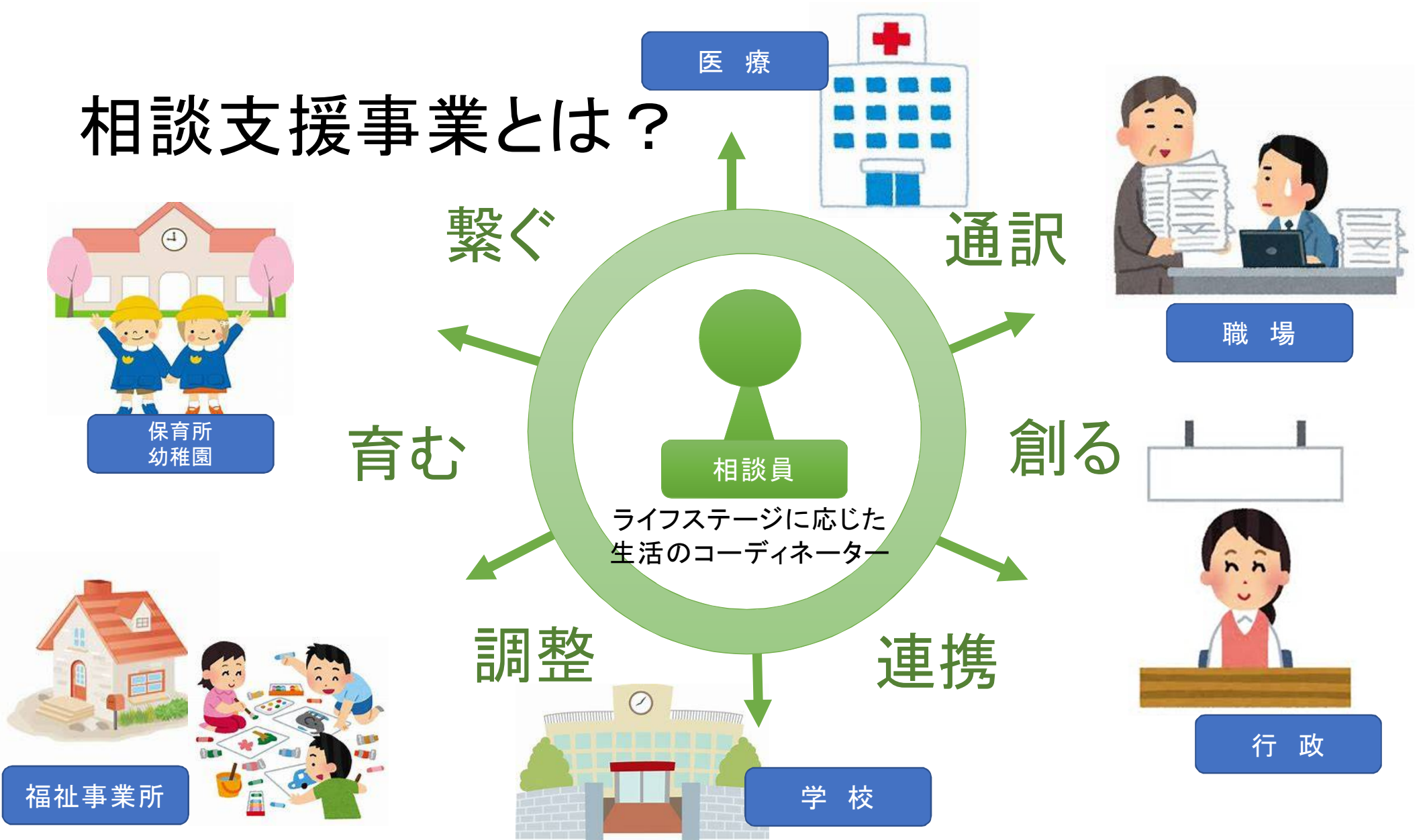
仙台市自閉症相談センター

西田有吾

もくじ

- 相談支援とは
- 相談ニーズの現状
- 相談支援の実際
- 連携支援のポイント
- 学齢期の支援で大切なこと

相談支援事業とは？



仙台市自閉症児者相談センターの役割

■対象ライフステージ:乳幼児期～成人期

①相談支援

個別
ケース



- 生活に困難さのある人々
→生活支援やコーディネート

小さなケアマネジメント

個別支援の
課題

②サロン(家族支援)

③人材養成

- 課題のある地域
→新たな企画や資源開発

大きなケアマネジメント

相談ニーズの現状①

二次的な問題から生活のしづらさを抱えている人が多い

乳幼児期



学齢期



成人期



二次的な問題につながるかかわりの蓄積

- 乳幼児～学齢前期は、発達の特徴がゆえの生活のしづらさについての相談が多い。
例) 集団活動の不適應、学習の躓き、生活リズムの乱れ...など
- 学齢後期～成人期で支援している人たちは二次的な問題も併せ持つ人が多く、発達障害児者支援のノウハウだけでは支援がうまくいかない!
例) 不登校からの引きこもり、過去の体験のフラッシュバック、通報による医療機関への入院...など

相談支援の実際①

・事例1：生活リズムが不安定なケース

⇒無理に生活リズムを整えるのは逆効果。生活リズムが安定しない背景へのアプローチが必要。

・事例2：人への拒否感、自己への否定感のあるケース

⇒指摘や注意、評価に極度に過敏。1. 本人の感じ方・考え方を知る。2. 周囲の価値観を押し付けない。3. 相互の違いを知り認め合う。

・事例3：人生における「楽しみ」が不足するケース

⇒本人のやりたいことを活用した支援が困難。社会的な体験や役割を通して、生活動機を高めることが必要。

相談ニーズの現状②

視点の違いやバラつきが本人・家族を苦しめることがある

- 家族: 「グレーと言われたから...」、「少しの頑張りで普通に...」...etc

→ 葛藤と受容のバランス

- 福祉: 「無理させないように...」、「楽しさが一番...」...etc

→ 保護と配慮のバランス

- 教育: 「〇年生だから...」、「今教えておかないと...」...etc

→ 指導と発達課題のバランス



相談支援の実際②

・事例1：施設等が発達障害対応に不安のあるケース

⇒本人の言動の解釈を振り返り、対応をフィードバック。職員・社員向け研修の実施。

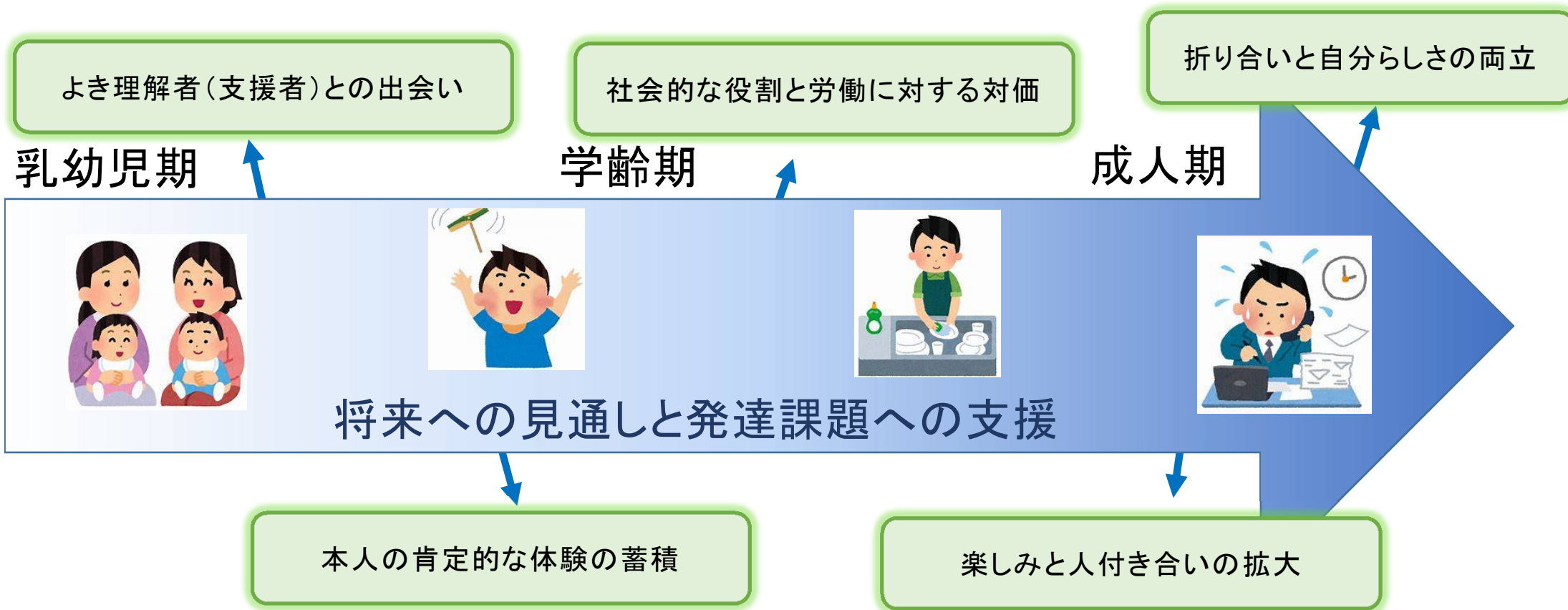
・事例2：支援機関間の支援方針に相違があるケース

⇒まず、こちらが「教えてください」、「聞かせてください」のスタンス。互いの機関の文化を踏まえたコーディネート。

・事例3：ライフステージの移行支援時に途切れるケース

⇒特性が薄いケース、支援チームが未構築なケースは途切れやすい。本人・家族の発信力の評価。各機関のモニタリング(後追い)のタイミングを調整。

連携のポイント①:いつ何を目指すとよいか？



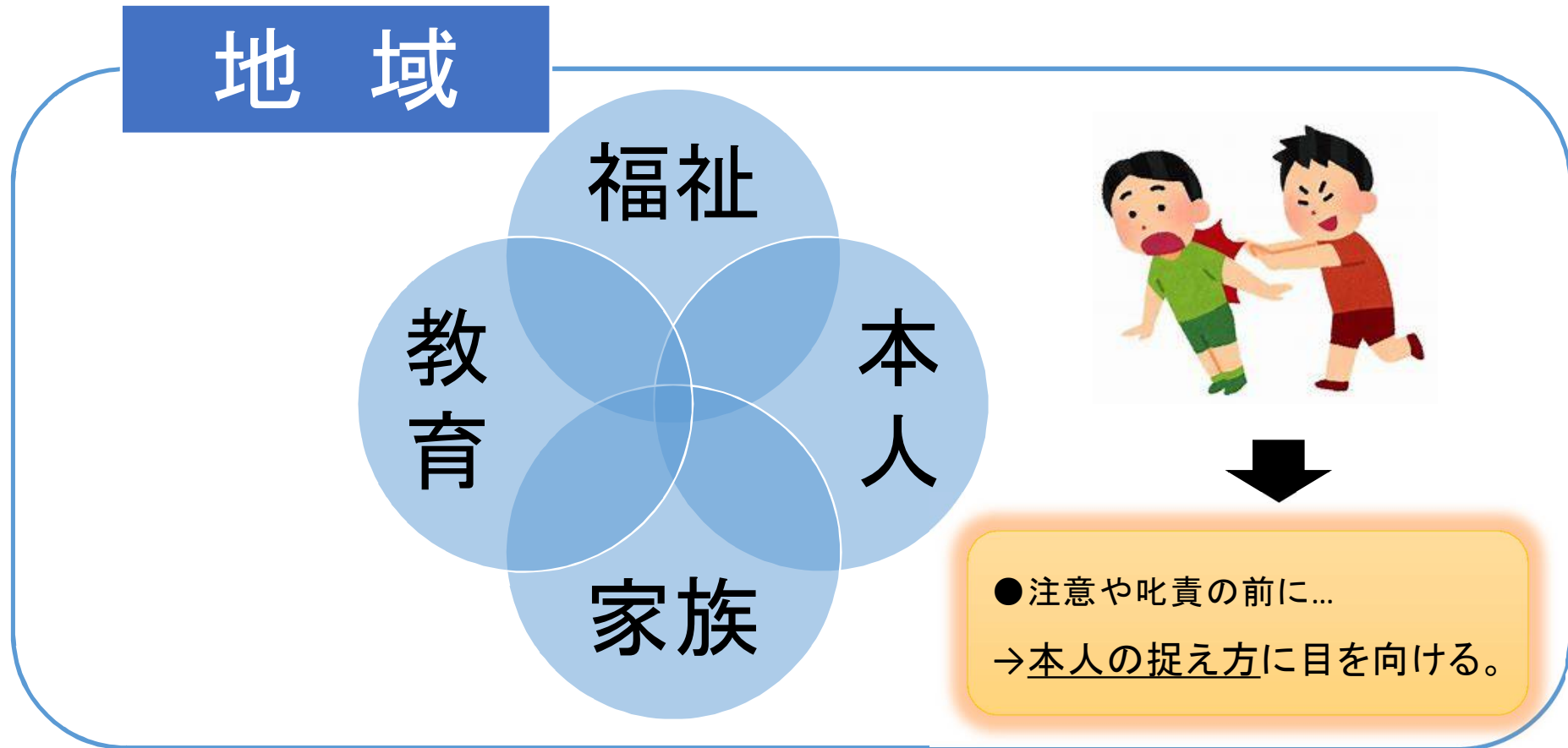
本人の見通しをサポーター間で共通認識する

学齡期の支援で大切なこと①

こどもの

- ・ **継続的・肯定的**な人や資源へのコーディネート

連携のポイント②:どこに目を向けるとよいか？



本人のよさ(感じ方・考え方)に気付き、認め合う

学齡期の支援で大切なこと②

こどもの

- ・ **可能性**を引き出し、広げる支援機関の協働